

JPC NEWS

Vol.17

“コロナ禍の教会”



JPC

Japan Pentecostal Council

2021年5月発行

■ 巻頭言



「世界につながる」

日本ペンテコステ協議会 議長
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 理事長
新潟グレイスチャペル 牧師 土屋 潔

コロナ禍ではありますが、先生方におかれましては復活の主の希望にあって宣教のお働きに励んでおられることと思います。

昨年来の新型コロナウイルス禍によって、JPCも研修会等が延期となり関係者の先生方には大変ご迷惑をおかけしました。本年はここに延期となっていました「世界とつながる」をテーマに研修をオンライン(Zoom)で開催することに致しました。主題講演を通して、出席者が日本宣教史に海外の支援および交流の中に過去・現在があることを再認識されていくことを望んでおります。その上で、私たちが住む日本の社会が世界とのつながりを深めなければ明日がないように、宣教面においても日本がガラパゴス化にならずに、拡大充実していくためにも今まで以上に次のことが求められているのではないのでしょうか。

第一は、海外との連携協力です。

国内には多くの国々からのキリスト者が主に労働従事を目的として訪れ、特にアジアが主体ではありますが、ブラジルなど他の国からも多いのが現状です。私が所属する教団でも近年にブラジル言語教区が設立され、現在も他の国と協議している事案があります。また教団組織では昨年の教団総会で国際関係室が認められ、文字通りの働きを推進しつつあります。海外と国内の線引きをしてきた従前に立ち続けるのではなく、海外との連携を一層に図っていくことで宣教の壁を打破するきっかけとなることができると見ます。

第二は、宣教の新たな視点の展開です。

新型コロナウイルス禍が越年する中で、この現況を前向きに捉えて、より宣教的に体質改善を果たす時ではないでしょうか。従来でしたら、宣教は基本として対面が中心であったでしょうが、今はそれが思うようにできません。しかしオンライン配信礼拝などを通して分かったことは、それらSNS媒体でしか見つけることができない若者たちが群れているという発見であり、再認識でした。ピンチをチャンスと捉えていくことができるのです。多面的かつ多層的視点を養うことは急務と言えるでしょう。JPCを通して栄光の霊が豊かにこの国を満たし、アジア・世界へと光を放つことができますように。

第三は、宣教の一体化を目指すことです。

一体化とは連携強化を意味しています。JPCは、ペンテコステ信仰を啓発し、加えて情報の共有、研鑽などを主旨としますが、“今”それらの共有と活用が一層に求められています。新型コロナウイルス禍はパンデミックとも呼ばれ終末の予兆とも言えます。「時すでに遅し」と臍を嚙まないためにも、相互の個性を重んじつつも宣教において柔軟かつダイナミックな展開が必要かと思わされます。

最後に、個人的には、ペンテコステ信仰の個性の一つにヨハネ1章5節にある「闇は光に勝てなかった」を喜んで堅持し告白・宣言し続けることと理解します。社会が如何様に変化しても、聖霊はこの光である主イエスにキリスト者を導きつつ、シャカイナグローリーをもって神の国をこの地に顕わされることを、また切に呼ぶ者に応えてくださることを期待します。

JPCを通して栄光の霊が豊かにこの国を満たし、アジア・世界へと光を放つことができますように。



「コロナ禍の教会」

イエス・キリスト福音の群 代表

東北中央教会 牧師 永井信義

JPCの他の教団、グループ同様、私たちイエス・キリスト福音の群の各地の教会、東北、関西、九州（下関を含む）にあるそれぞれの教区では工夫を重ねながら、福音宣教と牧会に励んでいます。日本のみならずグローバルに影響を与えているコロナ禍の中で、神が与えてくださったこの機会に、御霊に聞きつつ（ヨハネの黙示録2章7節他）、新しい皮袋（ルカの福音書5章38節他）となるための歩みを進めています。

『人生を導く五つの目的』で知られるリック・ウォレンが現在の状況を「世界にとっては悪いときだが、教会にとってはベストなときである」（“Bad time for the world, best time for the church!”）と言っているように、神が与えてくださっている絶好の機会として受け取りたい。そして、神がゆだねてくださった良い知らせを、シンプルで、自然で、毎日できる方法で伝える者でありたいと願っています。

また、私たちのグループの原点である、どんな困難な状況の中でも、「別の町や村へ」（マルコの福音書1章38節）福音を宣べ伝え、教会を建て上げることにフォーカスすることを確認し続けています。

東北では東日本大震災をきっかけに石巻、女川で宣教の拠点が生まれ、集会などが継続されていますが、霊的な復興のために、被災地での働きに合わせて、引き続きお祈りください。

さらに、この4月（2021年）から、宮崎県西諸（にしもろ）地区（えびの市、小林市、西諸県郡高原町）での開拓が行われています。高森基信牧師家族が昨年から準備し、宮崎福音教会での四年間の奉仕を終え、小林市に引越し、「ザ・クラウドチャーチ」（森永貞一郎記念館）としての活動がスタートしました。小林市を拠点とした西諸地区での宣教のために用いられますよう、お祈りをお願いいたします。

現在、私たちが置かれている状況は、まるでヨハネの福音書6章に出てくる荒れ狂う湖のようであるかもしれません。しかし、主イエスはその「湖の上を歩いて」おられます。そして、不安や恐れの中にある私たちに「わたしだ。恐れることはない」（6章20節）と語られていることを忘れないでいたいと思います。

私たちに与えられた「力と愛と慎みの霊」（テモテへの手紙第二1章7節）に満たされて、ご一緒に、一步一步前進し続ける者でありたいと心から願います。



ザ・クラウドチャーチ 礼拝風景

「コロナ禍の教会」

サンビ教団

ベツレヘムチャペル大竹 担当伝道師 大石好美

“この後、わたしは帰って来て、倒れたダビデの幕屋を建て直す。すなわち、廃墟と化した幕屋を建て直し、それを元どおりにする。それは、残った人々、すなわち、わたしの名で呼ばれる異邦人がみな、主を求めるようになるためである。”（使徒の働き15:16-17）



2020年は全世界が新型コロナで振り回された年、という言い過ぎでしょうか。そしてそれは例外なく、私たちの教会にも大きな影響を与えました。1回目の緊急事態宣言を受け、しばらく配信のみの礼拝が続きました。その後はグループ分けの礼拝となり、また配信のみに戻ったりと地域や全国の状況も参考にしつつ、様々な形態が取られてきました。その間、毎週ともに集まり、ともに主を賛美し、ともにいのちのパンなる神のみことばをいただき、また分かち合うという、教会にとって「ごく当たり前の、日常」が制限されてしまいました。

しかしその「制限」を通して、主は多くのことを私たちに学ばせ、また教会の成長へと導いてくださったのではないかと思います。

まず、互いに顔と顔を合わせることができない期間、互いを思い合う愛の心が今まで以上に開かれてきたように思います。ともに集まることの幸い、大切さ。閉ざされたことによって、深く悟らされたのではないのでしょうか。さらに、神の家族・霊的家族としての「家族感」のようなものが、全体にめばえて来ているように思います。不自由さを感じる状況の中にあっても、聖なる御霊様のお働きは一人ひとりの心のうちに着実に進められていました。

また、主との関係においても前進があったように思います。配信礼拝は、「教会に行くこと」それ自体が礼拝ではない、「主を畏れる敬虔な心で主を慕い求め、主の御前に出る」という心の姿勢が大切であるということを問い

かけてくれました。配信の礼拝が続くと、次第に「画面の向こうとこちら側」といった一種の距離感を感じてしまうものではないかと思います。しかし、真に主を求めて礼拝するなら、それが自宅であっても、また配信であっても、私たちの霊は御霊によって一つとなり、「画面の向こう」と一体となって、まるでそこに自分もいるかのように（霊的には、いるのだと思いますが）神を礼拝することができるのです。このことは、各々の礼拝がどこか習慣化してしまっていたかもしれないという気づきを与え、真の礼拝へと意識を向ける良い機会となったのではないかと思います。

福音宣教という点でもいくつか変化を見ることができました。家庭での配信礼拝では、なかなか教会には来ることのなかった未信者の家族と一緒に参加しているということも聞かれました。超教派の伝道集会がライブ配信によって行われた際、これまで仕事や家族の世話で来れなかった未信者が、家事の合間に、またテレワーク中に(!)視聴するということもありました。時流に合わせた新しい伝道方法のヒントにもなったように思います。

それ以上に、一人ひとりの信仰生活、主を畏れる生き方・キリストにある歩みそのものが福音宣教であるということをあらためて教えられ、これを踏まえた今年の教会の目標が掲げられ、祈りとともにチャレンジを始めています。

これらのことは、教会全体の流れの中で見られたものです。しかし全員がまったく同じ状況にあるわけではありません。それぞれの歩みがありますが、互いに手を携え、励まし合い、祈り合いながら前進して行く、その途上にあります。

コロナ禍はすべての教会にそうであったように、私たちの教会にも様々な影響を与えてきました。これからもしばらく続くでしょう。予断を許さない状況にあっても、神様がどのように教会に、また教会を通して働かれるのか。期待しつつ、主の導かれるところについて行きたいと思います。



サンビ教団 礼拝風景写真

「コロナに負けず楽しく伝道！」

シオン宣教団 代表

大阪シオン教会 主任牧師 安達隆夫



2020年に世界中を襲った新型コロナウイルスの影響で緊急事態宣言下では礼拝の中止を余儀なくされました。今までは「礼拝に出席しましょう」と勧めていたのに、「教会には来ないでください」と言わなくてはならなくなりました。しかし、この状況でもでき得る伝道をしようと考え、みんなで色々新しい取り組みを始めました。

（１）礼拝の配信と活用

これは多くの教会が取り組んでおられることですが、私たちは予めから礼拝に出席できない人のために配信をする事を検討していましたが、いつの間にか技術的に難しいと躊躇していました。また年配の方々も多いのでうまく機能しないと思い込んでいたのですが、必要に迫られて行くことになったところ最初こそトラブルがありましたが、徐々にうまく機能するようになり、今では当然のように聖日礼拝と祈祷会の様子を配信でき、自粛期間が終わった後も続けて喜ばれています。礼拝を欠席した人のみならず、礼拝に出席した方でも帰宅した後、もう一度説教の内容を復習するという方もいます。

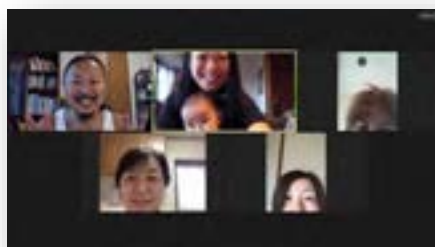
また、ある姉妹が自宅でオンライン礼拝をしていたところ、それに興味を持って横で聞いていたご主人が救われるという恵みにも与りました。他にもなかなか教会にお誘いするのは難しく、伝道はできないと思っていた人に配信のアドレスを送ることによって礼拝の雰囲気を知ってもらった人が教会にやって来たり、未信者の家族のところに行ってタブレットで一緒に礼拝映像を見る人が現れたりと配信をうまく利用した伝道によって次々と受洗者が与えられました。

それ以外にも高齢の方々がスマホをうまく使いこなしておられ、参加できない夜の礼拝の祈祷会に参加されたり、今年の受難週は最後の晩餐から復活までの箇所をイースター前にショートメッセージとして毎日配信するなど、

伝道以外にも積極的に配信を活用するようになりました。兄弟姉妹がオンラインに慣れたためです。

（２）Zoomの活用

以前からミーティング等で活用していたZoomをこの機に積極的に活用をしました。巷ではオンライン学習会、テレワーク、オンライン飲み会など仕事から、趣味、交わりに至るまでZoomを使ったものが流行っていますので、従来は対面でしかできないと考えていた先入観を払拭して、Zoomで早天祈祷、Zoomで一对一弟子養育（学び）、Zoomでママカフェ（ママさんたちの交わり）などコロナ禍で休止していたプログラムをオンライン化する試みを行いました。コロナ禍では礼拝以外の交わりや学びはどうしても後回しになってしまい、ともすれば完全に収束するまでできないと考えてしまいがちでしたが、Zoomがそれを可能にしました。オンラインでの実施は対面に比べると満足度は少し低くなりますが、その代わりに遠方の方や普段あまり交流のない方々とも幅広く交わりを持つようになりました。



Zoomで早天祈祷

（３）礼拝以外のコンテンツの作成

礼拝以外にも楽しくイエス様を知っていただく方法をみんなで考えながら、以下のようなオリジナルのコンテンツを作成し、配信しています。

コロナ禍だからこそ、生み出されたコンテンツをどんどん発信していきたいと考えています。

- ① **子供礼拝「おうち de CCM」**…こどもたちが家庭で礼拝を捧げられるように賛美、ゲーム、メッセージが一体になったもの
- ② **聖書のしくじり先生**…聖書の登場人物を方言（伊予弁）で紹介
- ③ **証し『人は必ず変われる』**…信徒の証しをお絵描き動画で紹介
- ④ **福音落語『コロナに負けるな』**…礼拝の中で聖書の御言葉を用いた伝道用プログラム



（おうちde CCM）



（しくじり先生）



（人は必ず変われる）



（福音落語）

「コロナ禍に於けるTPKFの取り組み」

単立ペンテコステ教会フェローシップ
御殿場純福音キリスト教会 牧師 中見 透

昨年2月、横浜港に停泊中のダイヤモンド・プリンセス号の乗客3711人の内542人が新型コロナウイルスに集団感染しているニュースが報道されました。これは大変なことになったなと思う間もなく、またたく間に日本中に感染が広がっていきました。



隣の韓国でも感染防止対策が叫ばれながら新興宗教団体のスーパースプレッダーとクラスター感染が5千人もあったことが報道され、政府に協力しなかった責任者が土下座している映像が流れていました。その映像を見ながら、教会が社会の一員としてコロナ禍の中でどのように社会的責任を果たしていったらいいのか考えさせられました。

初めは自分の教会の感染対策をするので手一杯でしたが、TPKF諸教会の情報が少しずつ分かってくるにしたがい、TPKF諸教会の現状をホームページ上で知ることができるようになり、TPKF諸教会の先生方がアクセスして共に祈り合う事ができるようにアンケート調査をお願いしました。



ソーシャルディスタンスをとって
御殿場純福音キリスト教会（静岡県）

65教会のうち43教会が応答してくれました。ほとんどの教会が礼拝、交わり、会食、日曜学校、婦人集会、チャーチミーティング、聖餐式、祈祷会を自粛していました。

25教会はYouTube、Skype、Zoomを利用して礼拝を限定録画配信、ライブ配信に切り替えて礼拝を実施していました。URL、週報（PDF）は教会員のメールアドレスを利用して送付していました。16教会は礼拝を中止し、教会

員のフォローアップとして礼拝メッセージをCDに録音し、原稿をプリントアウトして週報と一緒に郵送、あるいは手渡しをしているとのことでした。

3 教会がインターネットでの礼拝を検討中とのことでした。また、教職者が不在の教会では他教会の礼拝メッセージを利用していました。1 教会は、教会員数が少ないので感染対策をしながら通常通りの礼拝を継続しているとのことでした。

献金の取り扱いに関しては、銀行振り込み、郵送、教会持参をほとんどの教会がしていました。献金が出がったところもありましたが、現状維持している教会や逆に増加した教会もいくつかありました。

このコロナ禍で新しい礼拝出席者やバプテスマを受けた教会があるかを調べた結果、複数の教会で新しい出席者が与えられ、洗礼を受ける人が起こされていました。

滋賀県にある守山キリスト福音教会では感染予防対策をし、30人限定でコンサートを開催し、同時に公開配信をした結果、300人が聴いて下さったとの事でした。



ゴスペルコンサート
守山キリスト福音教会（滋賀県）



ゴスペル教室
山科キリスト福音教会（京都府）

聖餐式はほとんどの教会が中止していました。ある教会では聖餐式ができないので、限定配信の中で説教と聖餐式を録画し、事前に家庭でパンとブドウ液を準備してもらい、録画を見ながら牧師の指導で聖餐式をしていました。また、ある教会ではパンとブドウジュースを用いず、聖餐式を黙想する時間を持っていました。

横浜にある栄シャローム教会の小山英児牧師はコロナに感染し、生死を彷徨いましたが、多くの方々のお祈りに支えられて無事退院することができました。治療の副作用で肝臓の数値があがっていましたが現在は落ち着いて来ています。長時間の集中が困難という後遺症や頭痛がまだ残っていますがお祈りに加えて下されば感謝です。

「コロナ禍のアッセンブリー教会」

～日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団の新型コロナウイルス対策～

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 事務局長
郡山キリスト教会 牧師 三箇義生

日本アッセンブリー教団のコロナ対策は2020年2月末に予定されていた教職研修会の開催の是非を問うことから始まった。教職研修会では教団創立70周年を祝う記念式典を、クルーズ船のダイヤモンドプリンセス号が寄港した横浜で開催する準備を進めていたが、早々にこれを中止と決断した。難しい判断ではあったが、多くの教職からは良い判断だったと評価された。



■ 実態調査

対策を効果的に行うためには実態の把握が重要である。教団では2020年3月末と5月に各教区長による実態調査報告とオンラインによる教区長会議の開催。自粛が長期化する中で5月と6月に教会会計アンケート（Google Form）、オンライン化の対応状況を知るための礼拝アンケート（Google Form）を実施し、対策のための基礎情報を収集した。

■ コロナ対策ガイドライン

収集された情報を元に教団では教職・教会への支援策を次々と打ち出した。まず、教団から教会へ ① COVID-19対応ガイドライン（2020年3月から始め現在第7版更新）を作成し、各教会・教区・教団諸活動に対する感染対策の原則や感染被害の情報を共有した。

■ 教職・教会への支援策

教団では経済的支援を次のように実施した。アンケートから礼拝の自粛による経済的な不安が大きくなっている現状を把握し、② 3月には教団負担金の20%を188教会に還付（3～5月分）。③ 4月には教団公式サイトにオンラインで礼拝する信徒からの献金を各教会が受けられるように『オンライン献金

システム』を設置し、運用を開始した。

また、6月には教会会計の減少から牧師給与を減額する教会が増加傾向にあり、④ 教職一世帯に10万円の教職支援金を213世帯に給付した。さらに、アンケートでは家賃や会堂返済の資金繰りの不安が挙げられていたため、⑤ コロナ募金を原資とする教会への給付（最大10万円・11件）と貸付（上限100万円・4件）を行った。

コロナ禍の自粛期間の支援として、経済面だけでなく、教団公式サイトの情報発信を基本とする霊的支援を開始した。コロナ禍にあって⑥ 全世界のアッセンブリー教団による「共同の祈り」を2020年3月から開始し、今も毎週7日分の祈りの課題を配信している。また、⑦ 2020年5月から中央聖書神学校前校長によるディボーション・メッセージ動画の公開に始まり、⑧ 理事・教区長・部長・委員長・室長によるリレー・メッセージ動画を教団信徒向専用サイト「AG Fellowship」で毎週公開している。

その他の支援としては、日頃地域教会の宣教パートナーである⑨ クリスマス・アーティストへの支援を行った。コロナ禍で伝道的な講演やコンサートができなくなった10組に一組5万円でオンラインによるコンサートと講演を依頼し、教団信徒向専用サイト「AG Fellowship」で限定配信するという支援と活動紹介と宣伝に協力した。

＊神山みさ、横山大輔、吉村美穂、森下辰衛、露のききょう、塩谷達也&美和、末田和美、小堀英郎、ナイトdeライト、Migiwa（敬称略）

■ 諸活動のオンライン化

コロナ禍にあって、教区・教団の諸行事・諸活動は中止や延期となるものもあったが、時短・縮小しつつも、主にZoomやYouTubeを利用したオンラインによって開催されることが増えた。部や委員会、室によるオンライン会議、ハイブリッド形式の教区会やキャンプ、カンファレンスによって



JAG2020年教団総会オンライン

以前より時間は短縮されたが、回数は増加傾向にある。昨秋の教団総会（総会議員51名）では教団創立以来、初めてのZoom開催となり、円滑な進行のために投票用のプログラムも開発した。オンライン化により、低コストで多くの参加者を集めることができるメリットを今後も活かして行く方向である。

「コロナ禍の教会」

日本オープンバイブル教団

町田聖書教会 牧師 吉永 豊



今になって振り返ると、教区として最後に教職が一堂に会したのは2020年2月25日(火)のことでした。この日、教団総会に向けて議案書などの発送作業をしたのち、年に一度の「教区食事会」が『木曽路』において開かれ、美味しくしゃぶしゃぶをいただきました。新型コロナウイルスのことは気になってましたが、まさかこの後1年を経てなお深刻な状況が続くとは思っていませんでした。その日の夕方には、青少年教育部から3月7日(土)～8日(日)に計画されていた「ユース宣教旅行」中止の連絡が入りました。風雲急を告げるがごとく、2月27日(木)には安倍首相(当時)によって3月2日(月)から学校の休校などが発表されるなど事態は一気に深刻化していきました。29日(日)には3月末に予定されていた「教団ユースキャンプ」の中止の連絡が入り。また3月17日(火)に予定されていた「教団(予算)総会」も4月21日(火)に延期に。自身の牧会する教会においては、3月1日(日)から礼拝を5回に分け、20～25名程で集まる形式に移行。3月24日(火)オリンピック延期が正式に発表される状況の中で、3月29日(日)からはオンラインのみの礼拝に移行。この日、東京(町田市)は春の大雪でした。同日、人気コメディアン志村けんさんが新型コロナウイルスに感染し亡くなったことが報じられると、翌月曜日から緊張感は増すばかりの状況になっていきました。

4月7日(火)緊急事態宣言が七都府県に発出される中(16日全国に拡大)、4月21日(火)「教団予算総会」は書面議決用紙を集める異例な形式で開催。その後、教団所属教会への支援献金が予算化され、5月初旬から各教会に順次ささげられました。以降、教団並びに教区の活動の主体は、オンライン上へと移行していきます。毎年ゴールデンウィークに開催される「教区ユースカンファレンス」は、講師の三宅千香子(AGめぐみ福音キリスト教会)牧師にメッセージ動画を収録していただき、YouTubeなどで配信する初めての挑戦になりました。6月に開催される「教団(決算)総会」はZOOMにおいての開催に。また、

7月に開催される「教区聖会」も講師の寺田文雄(AG南紀リバーサイドチャーチ)牧師からメッセージ動画を送っていただきYouTubeで配信するかたちになりました。夏といえばキャンプの季節ですが、こちらもオンラインでの開催となりました。講師の野田勝利(ひばりが丘バイブルチャーチ)牧師からメッセージ動画を送っていただいて配信するかたちと、ご本人に配信担当教会に来ていただいてそこからLIVE配信するスタイルの併用になりました。あわせて各教会のユースがそれぞれ参加できるようにオンライン上での多彩なレクが企画され、5日間にわたっていつもとちがう夏を経験することができました。

秋をむかえ、感染者数(東京)が100～300名で推移する中、「教区ユースカンファレンス」は講師の金智満(名古屋シオンチャーチ)牧師が会場教会においてメッセージして下さるものをLIVE配信し、それ以外の教会はLIVE配信に参加する形式で開催されました。この間「教区会」も集まる人数を最小限におさえ、オンラインとの併用で三密にならないように配慮する中で開かれました。年末になると感染者数が急拡大。明けて2021年1月7日(木)には二度目の「緊急事態宣言」発出となる中、1月11日(月)「教区新年聖会」が教区長である石川良男(墨田聖書教会)牧師のメッセージをYouTubeで配信するかたちで開催。その後ZOOMにおいて各教会の兄弟姉妹との交流のひと時をもち、互いに祈り合いました。3月16日(火)には、今となっては当たり前のように「教団(予算)総会」がZOOMにて開催。3月末からの「教団ユースキャンプ」もオンラインでの開催になり、講師の長沢崇史(カナンプレイズチャーチ)牧師がみことばを語ってくださいました。

コロナ禍の1年ではありましたが、主のわざだけは決して中止にも延期にもならず前進し続ける。そのことを知ることができたのは大きな恵みでした。そのために労してくださいました多くの先生方、兄弟姉妹があったこと、またSNS上など様々なかたちで試行錯誤と実践を発表して下さった諸教会の皆さんに心から感謝したいと思います。個人的には今まで以上にたくさんの先生方のメッセージをオンライン上で聴くことができたことは、恵みであり支えでもありました。



「コロナ禍の教会」

日本チャーチオブゴッド教団
瀬谷キリスト教会 主任牧師 富安 敦



新型コロナウイルスによる感染症が問題となったとき、私たちの教団がまず行ったことは、そのことへの主の介入を求めるべく、共有するみことばと共通祈禱課題を定め、教団全体に展開して、一緒にとりなしの祈りをささげることでした。歴代誌第二7章12-16節と詩篇91篇を中心聖句とし、「主の民である神の教会が、主の主権を認めて、自らへりくだり、主を慕い求め、主に立ち返るように」との祈禱課題を真っ先に掲げ、具体的な課題を挙げて皆で祈るようにしました。また牧師たちは、一緒に集まることができない中、賛美とみことばの分かち合いと祈りのときをZoomを使って定期的に持ち、主からの励ましを受けて大いに強められました。そのことを通して、予期せぬことが起こったとき、目の前の事に心奪われず、みことばと祈りを通して主に心を向けることの大切さを、あらためて思わされました。

一方、各教会においては、緊急事態宣言の発出を受け、集まることが困難となり、設備も知識もない中、それぞれ苦労しながらYouTube等によるオンライン配信を進めていましたが、すでにそのような働きの実績を持つ教会があったため、そこでの知見を共有することによって、他の教会でも比較的スムーズに配信を始めることができました。またその際、配信機器を含めたコロナ対策導入のための費用が発生することを考慮し、教団として、申請があった教会に対して「コロナ対策支援金」を給付することにしました。さらに、教団本部への各教会からの毎月の宣教献金を一時的に免除する措置も取り、経済的な負担が少しでも軽くなるように配慮しました。

そのような中、昨年のユースキャンプは、春、夏とも中止という、これまでの教団の長い歴史の中でも初めての事態となりましたが、ユースたちは主に対する飢え渴きをますます深め、互いの交わりを持ち続けたいと願い、YouTubeとZoomを活用して「オンラインユースキャンプ」を8月よりスタートしました。以来、その集会は10月、12月と続けられています。また、今年1月の成人式も、各教会をつなぎ、オンラインで実施することができました。そのように、たとえ教団全体で集まることが困難でも、主の臨在あふれる賛美、立てられた器から語られるメッセージ、小グループによる分かち合いと祈りを通して、ユースたちは主の豊かな恵みと祝福にあずかっています。

5月の連休に毎年開催してきた、教団全体が集う「五月聖会」は、昨年引き続き今年も9月に延期することが決まりました。しかし、どのような状況となっても、私たちの願いは変わりません。上記のとおり、教団として共通祈禱課題を定めましたが、そこには、「人々が主に立ち返り、癒やしと回復が与えられ、御国がこの地に来るように」、「主の民である教会が守られ、主の御旨がなされるように」という願いが含まれているのです。そのことが実現するよう、破れ口に立ち、さらに熱心にとりなす群れでありたいと願っています。



教団成人式

「コロナ禍の教会」

日本ネクスト・タウンズ・ミッション
加古川リバイバルチャペル 牧師 重延孝一



NTM（日本ネクストタウンズミッション）に所属する加古川リバイバルチャペルでは、昨年2月からアルコール消毒液を玄関に設置して来会者に協力をお願いしてきました。

1、集会時の取り組みとして

換気の励行・ドア、座席のアルコール消毒を礼拝前後に行う・間隔を開けて座る・献品されたエアドック（空気清浄機）・アクリル板の設置（説教者と賛美奉仕者がマスク無しで奉仕する為）・医療従事者の為のリモート礼拝等を致しました。アクリル板は信徒の手作りです。

又、グループからの一律10万円の支援金、2020年度の後期分担金の免除、ズームでの牧師会、交わり会、一致の祈りなどの様々な協力、連携、配慮も頂きました。



2、霊的な取り組みとして

祈り：教会員の感染者はありませんでしたが、医療従事者、対策に当たる行政の為に。BFPのハイナイト祈り会も休まずに行う事が出来ました。

伝道師の担当する黙示録の学び：タイムリーな学びの時となっています。（教会の裁き、終わりの時代のしるし、艱難期に起こる出来事、携挙と再臨、等々。）

3、祝福

礼拝の継続：教会の聖日礼拝が、このコロナ禍において一度も休むことなく守れていることに感謝します。



御言が与えられました。Ⅱ歴代誌7章14節

「わたしの名を呼び求めているわたしの民がみずからへりくだり、祈りをささげ、わたしの顔を慕い求め、その悪い道から立ち返るなら、わたしが親しく天から聞いて、彼らの罪を赦し彼らの地をいやそう。」

この御言を見ていると、神様のご自分の民に対する御思いが伝わってくるようです。自らへり下り、祈って、御顔を慕い求める事は私たちに対する挑戦です。その悪い道から立ち返ることは、私たちへの叱責の意味があるのではないのでしょうか。そして、親しく天から聞いて、私たちの罪を赦し、この地を癒す約束があります。そのような思いで、今年の教会テーマは「リバイバル」と致しました。

私達は一人では何もできません。同じように一人の存在、一つの教会、一つの教団でも不十分です。お互いの存在が必要なのです。このコロナ禍で、クリスチャン相互の愛が実践できるのなら、それは大きな証になるのではないかと思います。

「からこそ信仰」

最後に、今年、1月24日の礼拝に近隣教会のある宣教師が来会され、集会が終わって「今日は励まされました。からこそ信仰ですね。」とお声を掛けられました。「ナヌ？」言われた意味がわからなかったのですが「～だからこそ信仰をもって～しよう。」という事だと分かりました。「うまい!! お上手。」

コロナ禍のこんな時だからと、恐れて一步退けば何も起きません。

しかしこんな時だからこそ信仰をもって一步踏み出すことによって聖霊様の御業を期待出来るのではないのでしょうか。

コロナ禍の今だからこそ日本のリバイバルを真剣に求め、家族、友人、周りの人々の救いの為に、聖霊様と共に働く者になりたいものです。

JPCの諸教会に豊かな祝福が注がれることをお祈り致します。



「コロナ禍の教会」

日本フォースクエア福音教団
ホープチャペル流山 牧師 樋口章代

世界中を震撼させた新型コロナウイルスの問題は、世の中を大きく揺さぶり、教会にも大きな影響を与え、活動に様々な転換を迫りました。

北海道から沖縄まで45教会を持つ日本フォースクエア教団では、各教会の実情を把握するために複数回アンケートを取り、経済状況の補填の為、全教会に給付金を送り、また特別コロナ貸付を創設しました。感染拡大に伴い、集まることが困難な地域では、ズームでの教区会になり、また理事会、実務委員会もズーム会議に変わりました。さらに、教団大会もズームでの開催となりました。特に今回の教団大会は4年に一度の役員選挙があり、また創立70周年という記念行事を控え、多くの点で新しい対応を迫られましたが、主は恵み深く大きな祝福を下されたことを心より感謝しております。

各教会の礼拝は地域性があります。感染が広がる地域ではズームでの礼拝、Facebook、YouTube配信を通しての礼拝となり、また一方で、毎週集まって礼拝を続けている教会も多くあります。教団からは、感染予防の注意事項を各教会に通知し、それぞれの教会に注意を喚起しつつ、最善の礼拝を守るよう励ましています。

私が牧会するホープチャペル流山では、昨年の緊急事態宣言下では集まるこ

とができず、礼拝を録音したものをネット配信していました。その間、ズームでのミーティング等続ける中で、新しく土曜日に、東京と兵庫、千葉をつなぐオンラインチャーチを開くように導かれました。定期的なイベントが開けなくなり、ノンクリスチャンとの繋がり続けるためにFacebookページを設けました。その関係が続き、さらに深まることを期待しています。

面白いのは、コロナで行動が制約されている中で、主が次々と新しい扉を開いて下さっていることです。英語でメッセージを伝えたいという思いが与えられ祈っていると、アメリカ、オーストラリア、イギリス、ノルウェーの英語講師とオンラインでつながり、説教の翻訳をチェックしてもらい、発音やリズムを聞いてもらうという名目で、福音を一对一で伝える機会が与えられました。14年間教会に通ったけれど、強制される言葉に躓き教会を離れたというイギリス人は、福音を聞き、自分が神を誤解していたことに気づき、神の愛を受け取りました。また別の講師は、真剣に聖書のメッセージを聞き、忘れていた神への思いを新たにしていました。英語の勉強のつもりで始め、しかもオンラインであったのに、主は不思議なことをされると思いました。

主は、この新型コロナの厳しい現実の中で、多くを教会に語られていると思います。私達は、コロナ以前の日常を取り戻すことを求めるのではなく、新しい時代に適応するクリエイティブな発想と適応力を身に着けることが必要なのではないのでしょうか。世の中の様々なものがかたちを変えていきます。私達はこの変化し続ける世界に、何とかして主の福音を届けたいと願っています。集まることの大切さを再認識し、同時に集まらないことがあっても、いかにして社会に福音を携えて出ていくかを主に聞きながら、歩みを止めることなく、進んでいきたいと思います。

「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」（マタイ28:18-20）

「コロナ禍の教会」

日本ベテルミッション 代表
福生ベテル教会 牧師 津坂良夫



1. 新型コロナウイルスが教会にもたらした変化

2020年に始まった新型コロナウイルスの感染拡大

は、世界と日本に大きな衝撃をもたらしました。特に、教会に対しては、クリスチャンが大切にしている価値観の一つである「ともに集まる」ということを難しくさせてしまいました。そこでネット配信をしていなかった教会でも、インターネットによる礼拝の配信をやむを得ず始めるようになりました。しかし高齢者など、インターネットを使用していない方々には、それぞれに応じた別のケアが必要となり、コロナ禍では、教会は今までとは異なる牧会・伝道が求められています。

又これに加え、日常生活の中で、私たちが感染する、あるいは知らずに感染させてしまうという不安と恐れが、私たちに起きるようになりました。このため私たちの生活の自由が奪われ、人と関わるが大変難しくなっています。又新型コロナウイルス感染への不安が、人によって度合いが異なるため、対応の難しさも生み出しました。このようにして一年を経過してきましたが、依然として感染拡大が収束しないので、教会は長期にわたるコロナ対策を考えなければなりません。

私たち「日本ベテルミッション」のグループは、フェロシップと協力を目的とした団体であり、岩手県（1）東京都（1）福岡県（2）鹿児島県（1）に点在しています。各地での感染状況が異なりますので、一律の対応ではなく、それぞれの地域の感染状況や地域性の違いによって、教会の対応方法は様々です。そこで今回、簡単なアンケートを取り、地域における対応の違いを調べてみました。

1) 新型コロナウイルスへの教会員の不安

東京都はコロナ感染者数が多いため、信徒の感じる不安が強いのが当然ですが、感染者数が少ない県であっても、他県からの移動者がいるために感染の

リスクを感じている信徒がいます。

2) コロナ禍において会堂に集まる信徒数

コロナ禍にあって感染者が多い地域は、やはり会堂に出席する教会員が減少しています。その原因はおもに「緊急事態宣言の発令」と「医療従事者であること」でした。又オンラインの礼拝が継続する中、信徒の方々に「慣れ」が生じ、安易な方に傾きやすいという課題も起こっています。

3) 一年間の新型コロナウイルスに対する具体的な対応

一年を振り返り、各教会では集まる人数や地域の感染者数の違いにより、次にあげるような具体的な感染対応を行ってきました。

① 集会内でソーシャルデスタンスを保つための 方策

② 会堂の収容人数と礼拝出席者数などにより、 礼拝回数の増加、礼拝場所の分散化

③ 会食、ランチ等の禁止

④ 小集会のリモート化

⑤ 人々が密集するイベントの中止

⑥ 部屋の除菌、消毒による対応

⑦ オンライン礼拝と会堂礼拝の併用型礼拝

⑧ 説教者、司会者、シンガー等の飛沫防止策

⑨ 事前に容器にパンとぶどう液を用意した聖餐方法

⑩ 基地付近にある教会は、基地のコロナ基準に対応 した人数制限等

⑪ 会堂内の換気と加湿



受付



講壇

コロナ禍で、礼拝以外のほとんどのプログラムが中止されたことで、良かったと思えることは、今までの教会のプログラムを再検討する機会が与えられたことです。そこで私たちは、何が本当に重要で必要なプログラムであるかを再考しながら、注意深く再開するようにしています。又今後もコロナ禍の中で、教会の働きを継続するための基本的な理念として、「安全」（新型コロナウイルス感染防止にできる限り対応していること）と「安心」（人々の感じ方の多様性に対応していること）が必要であると思います。

「主の御旗を高く掲げる」

日本ペンテコステ教団 牧師会 会長

花園キリスト教会 牧師 為房晃夫



ハレルヤ! 主イエス様の御名を賛美します。

当教団は、東は長野県から西は鹿児島県まで、計18教会があり、約20名の教役者がおのおの任地にて、宣教と牧会に励んでいます。(2021.3.20現在)

「私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にいる道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」(ピリピ4:12,13)

各教会が置かれた地域性、信徒数、年齢層等は異なります。主日の礼拝、洗礼や聖餐式等をはじめ、各教会の牧師の召しと賜物、信仰、悟り、判断、確信に従って、コロナ禍へ対応しています。実際に集まる礼拝とオンライン、「リアル」と「デジタル」両方で対応している先生方が多いようです。

ワクチン接種が始まりましたが、感染状況はまだまだ流動的であり、愛餐会、クリスマス会等のイベントに関しては自粛が多いようです。

それぞれ見解や対応は異なっても、さばき合うことなく、互いに祈り合い、励まし合い、聖霊に励まされて前進し続けております。

「こうして教会は、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤの全地にわたり築き上げられて平安を保ち、主を恐れかしこみ、聖霊に励まされて前進し続けたので、信者の数がふえて行った。」(使徒9:31)

執筆者の教会の場合、第1回の緊急事態宣言の時期、コロナ禍への対応を巡り、困惑と混乱が見られましたが、これも神のお許しの中で起こっている事で、先延ばしにしていた課題が一挙に解決するなど、結果的には、御霊による一致が生まれています。聖霊の働きはダイナミックです。現状がどうであれ、

いつも喜び、絶えず祈り、すべての事に感謝をもって受けとめていく時、神の栄光を見ます。

当教会は、37店舗の商店街の中にあり、昨年は、コロナ禍でイベント開催もすべて中止になりましたが、マスク着用、換気、手指消毒、手洗いの励行等、コロナ対策を取り、安心ステッカーを張り、教会の扉は常にオープンにしています。地域と共にコロナ禍対策に取り組んでいます。牧師自身の健康管理はもちろんのことです。



礼拝・賛美・祈りが捧げられる教会は、地域社会にあって「祝福の基」であることを再認識しています。最強の感染対策は、まずとりなしの祈りです。祈りの祭壇で、主に知恵と力を求めれば、主はなすべきことを示して下さい、宣教はできます。

コロナ禍を機に「のぼり旗」も新調しました。「主の御名を呼ぶ者はみな救われる」と旗印を鮮明に、主の御旗を高く掲げております。

「主はモーセに仰せられた。『あなたは燃える蛇を作り、それを旗ざおの上につけよ。すべてかまれた者は、それを仰ぎ見れば、生きる。』モーセは一つの青銅の蛇を作り、それを旗ざおの上につけた。もし蛇が人をかんでも、その者が青銅の蛇を仰ぎ見ると、生きた。」(民数記21:8,9)



今は恵みの時、今は救いの日。主の御名を呼ぶ者はみな救われます。コロナ禍の中、当教団は、日本と世界の爆発的リバイバル、大漁の奇跡を信じ期待しつつ、前進し続けております。

「イエスは彼らに言われた。『舟の右側に網をおろしなさい。そうすれば、とれます。』そこで、彼らは網をおろした。すると、おびただしい魚のために、網を引き上げることができなかった。」(ヨハネ21:6)

「コロナ禍の教会/希望の教会」

フルゴスペル（純福音）日本総会 広報役員

純福音成田教会 担任牧師 妹尾光樹



2020年春に始まった日本の新型コロナウイルスの蔓延は、教会の活動の全てを奪ったように見えました。私たちの教団でも、各教会での礼拝はもとより、例年行われる、韓国ヨイド教会での世界宣教大会、並びにCGI大会（5月）、教団傘下90の教会の教職家族150名が集う教団総会（11月つま恋）をはじめとする多くの大小の行事、聖会が中止延期、またはオンラインでの開催と追い込まれました。

しかし、その中でも、神学校の入学式（2020年4月）卒業式（2021年3月）、牧師試験と任職式（2020年8月）などが、最小限の人員が集まる中で、滞りなく行われたことは、神様の恵みとしか言いようがありません。

このコロナ禍は、私たち教会に多くの問いを投げかけてくれたのではないのでしょうか？

教会とは何か？ 礼拝とは何か？ この状況の中で、宣教伝道をどのように進めていくべきなのか？ そしてその中でオンラインをどのように活用していくのか？

教団傘下90の教会では、それぞれがその能力に応じて、この一年、工夫をこらして礼拝をはじめ、教会の活動を続けてきました。おそらく多くは皆さんの教会でも行われている方法であると思います。特に、今までオンラインの礼拝に関心がなかった教会が、ほぼ全ての教会でオンラインでの礼拝が行われるようになったのは、アフターコロナ時代を考えると、大きな前進であったと思います。教会の配信技術もさらに向上したと感じています。

さらに連帯を高めるために、ヨイド教会の礼拝を生中継で全世界の純福音教会と結び、1カ月にわたって続けられたことは、個々の教会にある問題ではなく、



全世界が同じ問題に直面していることを再認識する良い機会となりました。また世界中のアッセンブリー教会が、夜7時に同時祈禱を行なったことも意味あることであったと思います。

今年一月終わりからサービスが始まった音声チャットSNSサービス、Clubhouseは、この原稿を書いている4月現在、日本では80万人もの人たちが使っています。その中で、キリスト教会でも、このツールを使った伝道を進めるべく、若いクリスチャンユーザーを中心として活動が続けられています。（詳しくは3月のキリスト新聞、クリスチャン新聞を参照）彼らには、教団や教会の縛りが無い自由な発想の中で、多くの人たちに福音を伝えています。）



多くのクリスチャンのルームが立て上げられ、聖書の講義から、相談まで、活発に活動が続けられています。私も毎朝6時半からの30分、聖書からのメッセージを中心に、賛美と祈りの時間を持ち、この早い時間にも関わらず、30名から50名の人々がルームを訪れて下さり、耳を傾けてくださっています。その中の1割はクリスチャンではない方々です。これもまた、コロナ禍で早天祈禱会ができなくなり、その代わりに神様が与えて下さった方法でもありました。

またコロナで海外からの留学生の来日が遅延している、この春開校予定であった、北海道札幌での全寮制の語学学校、神学校も着々と準備が進んでいることを感謝しております。覚えてお祈り頂ければ幸いです。

神様の宣教は、このコロナ禍にあっても止まることを知りません。人の集まりや行動には防疫の観点から、制限が掛けられましたが、聖霊様の働きには、コロナは関係ありません。キリストの教会には希望が持てます。

"こうして、教会はユダヤ、ガリラヤ、サマリアの全地にわたり築き上げられて平安を得た。主を恐れ、聖霊に励まされて前進し続け、信者の数が増えていった。"（使徒の働き 9章31節 聖書 新改訳2017）

「コロナ禍における教会」

神の家族キリスト教会
クリスチャンウェイ 主任牧師 和田 基



主の尊い御名をあがめます。昨年からはまったコロナ禍は世界中のあらゆる活動に影響を与えました。それは教会活動においても例外ではありませんが、そうした中でも主の恵みは豊かに注がれていることを感謝します。

私たち神の家族キリスト教会も、数々の変化を余儀なくされました。顕著なところでは、新年と夏に行ってきた、フェローシップ合同の聖会をオンラインに切り替えました。しかし、その変更は意外にも出席者の範囲を広げることにつながり、思いがけないところで視聴いただいた国内外の兄弟から反響を伺うことになりました。



その中から、先日、牧師会で伺ったお証を紹介いたします。

(以下、分かりやすくするため人称を置き換えました。)



私は、かつてイエス様を信じたものの教会から離れてしまい依存症になっていました。友人の紹介で送られてきた新年聖会のメッセージを聞く中で私のうちに聖霊が働き、悔い改めが起こりました。その時以来、自分では絶対やめられなかった依存を完全に止めることが出来、依存症から解放されました。ハレルヤ！

私の変化を見た娘の交際相手がイエス様に興味を持ちました。私から聞いたイエス様の話から、イエス様を救い主と信じて人生を捧げたいと思ったそうで

す。2月18日、彼は「僕も新しく生まれ変わって、クリスチャンになりたい」との信仰を告白し、教会リーダーに導かれ、救いの祈りを一緒にしました。喜びと感動に満ちた時となりました。さらに、長男の嫁とその子もイエス様に興味を持ち、今後、証しの機会が備えられています。さらなる聖霊様の働きに期待しています。

福音には力があります。私は、この時と場所を超えて働かれる主の御業を聞いて大変感動しました。コロナ禍は礼拝だけでなく、式典をもオンラインに切り替えさせますが、それでも主の力強い働きは変わることがありません。

今年1月29日、父が75歳で天に召されました。お世話になった皆様に訃報をお伝えしたものの、召天式にお迎えすることできず、一部の皆様にはオンラインでの参加となりました。この召天式には、遠方にいる親戚たちやキリスト教葬儀には足を運ぶことのなかったであろう方々もオンラインで列席し、福音に耳を傾けてくれました。

コロナ禍は、物事の表層を剥がし本質を見せてくれると私は常々感じてきました。教会の礼拝はおろか、召天式さえ映像配信などを駆使して共有できるようになった今、自分は一体何をしているのかとその本質を問われる気持ちです。緊急事態宣言下、これまで以上に個人訪問などの交わりを持つ中で私は兄姉の意外な素顔を発見しました。コロナ禍は不便さを経験させましたが、主は知恵や新たな発見、数々の恵みを与えてくださいました。

この状況はしばらく続くと言われ、コロナ疲れもやってきます。しかし、私たちはたとえ疲れても永遠の希望でありいのちである主によって新しい力を得ることができます。コロナ禍によって人々は心身が疲弊し、ますます本当に大切なものが問われる時となりました。私たちクリスチャンは多くの失われた魂に良い知らせをお届けしなければなりません。改めて救霊の情熱に燃やされ、前に進もうと思わされています。

ある夜、主は幻によってパウロに言われた。「恐れなくて、語り続けなさい。黙っていてはいけない。わたしがあなたとともにいるので、あなたを襲って危害を加える者はいない。この町には、わたしの民がたくさんいるのだから。」（使徒の働き18章9～10節）

JPC総会雑感

日本ペンテコステ協議会 書記
日本チャーチオブゴッド教団 監督
東京ライトハウス 主任牧師 八束選也



2020年11月26日（木）午後1時半より、コロナ感染拡大防止の為にZoomを使用して、オンラインで日本ペンテコステ協議会総会が開催されました。10教団から計17名の参加があり、JPN代表の細井眞師もオブザーバーとして参加してくださいました。

土屋潔議長が、ヨハネ1章1～5節「光はやみの中に輝いている！」とのみことばにより、世界的なコロナ禍の下、この世を覆う暗闇の中にあって、ペンテコステの群れとして益々矛先を尖らせて聖霊によって真理のみことばを語っていかうと励ましてくださいました。

前回議事録、2020年度活動および会計報告の説明があり、監査の樋口章代師の報告の後、承認されました。続けて以下の2021年度の活動計画について確認がなされました。

日本ペンテコステ協議会研修会

日 時：2021年5月27日（木）13：00～15：00

場 所：Zoomオンラインミーティング（コロナ感染拡大防止の為、変更となりました）

会 費：1,000円

テーマ：世界とつながる

プログラム：13：00～13：30 礼拝 説教：安達隆夫師

13：30～14：00 講演1：三箇義生師

14：00～14：30 講演2：大城けい子師

14：30～15：00 質疑応答等 司会：中見 透師

日本ペンテコステ協議会総会

日 時：２０２１年１１月１８日（木）１２：００～１６：００

場 所：日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 中央聖書神学校チャペル
（集合して総会が開催できるかどうかについては、９月の役員会で決定されます）

２０２１年度会計予算について、会計の吉永豊師より「昨年同様の活動計画であるので、昨年同様の収入予算と支出予算とする」ことについて提案がなされ、収入と支出の諸項目について協議がなされました。その後、２０２１年度の活動計画と会計予算は満場一致で承認されました。

その後、細井眞師より、翌日のJPN懇親会では「これからの神学教育について」と題し、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団の中央聖書神学校校長である三宅規之師が講演されることが紹介されました。JEA主催の日本伝道会議が２０２３年に愛知県で開催されるとの報告がなされました。その他、JPFオンライン祈祷会、東京リバイバルのプレ大会と本大会、各教団の聖会等の案内がなされました。最後に祈りを持って総会は終了しました。

■2019年度JPC会計決算報告書

2018年11月1日～2019年10月31日

収入の部				支出の部			
項 目	予 算	決 算	備 考	項 目	予 算	決 算	備 考
協 力 金	540,000	470,000		総 会	45,000	59,515	
一 般 献 金	100,000	50,000		役員 活動費	175,000	123,834	
研修会礼拝献金	80,000	124,700		研 修 会	300,000	197,295	
研修会 会費	180,000	186,000		PWF 負担金	60,000	59,720	500米ドル+送料
雑 収 入		3		PAM 負担金	60,000	54,470	500米ドル
				JPCニュース	115,000	108,330	
				新 聞 広 告	75,000	60,480	
				事 務 諸 費	20,000		
				PWC参加積立	50,000	50,000	
				予 備 費	50,000		
小 計	900,000	830,703		小 計	950,000	713,644	
前年度繰越金	837,592	837,592		次年度繰越金	787,592	954,651	
合 計	1,737,592	1,668,295		合 計	1,737,592	1,668,295	

＜協力金納入団体＞

神の家族キリスト教会	20,000	2019
単立ペンテコステ教会フェローシップ		
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団	150,000	2019
日本チャーチオブゴッド教団	50,000	2019
イエス・キリスト福音の群		
日本ネクスト・タウンズ・ミッション	30,000	2019
日本フォースクエア福音教団	40,000	2019
シオン宣教団	20,000	2019
日本オープン・バイブル教団	40,000	2019
日本ベテルミッション	20,000	2019
日本ペンテコステ教団	60,000	2019・20
サンビ教団	40,000	2019・20
フルゴスベル(純福音)日本総会		

＜PWC参加積立＞

2017年度	50,000円
2018年度	50,000円
2019年度	50,000円
小計	150,000円
参加費用補助	150,000円
差引残	0円
会計残	954,651
積立金	0
合計	954,651

■2020年度JPC会計決算報告書

2019年11月1日～2020年10月31日

収入の部				支出の部			
項 目	予 算	決 算	備 考	項 目	予 算	決 算	備 考
協 力 金	500,000	540,000		総 会	40,000	30,605	
一 般 献 金	100,000			役員 活動費	180,000	82,210	
研修会礼拝献金	80,000		中止	研 修 会	200,000		中止
研修会 会費	180,000		中止	PWF 負担金	60,000	58,930	500株ドル +送料(3,000円)
雑 収 入		6		PAM 負担金	60,000	59,680	500株ドル +送料(6,300円)
				JPCニュース	115,000		中止
				新 聞 広 告	75,000	59,400	
				事 務 諸 費	20,000	13,700	
				PWC参加積立	50,000	50,000	
				予 備 費	60,000		
小 計	860,000	540,006		小 計	860,000	354,525	
前年度繰越金	1,057,154	1,057,154		次年度繰越金	1,057,154	1,242,635	
合 計	1,917,154	1,597,160		合 計	1,917,154	1,597,160	

<協力金納入団体>

	納 入 額	
神の家族キリスト教会	40,000	2020～2021
単立ペンテコステ教会フェローシップ	50,000	2020
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団	150,000	2020
日本チャーチオブゴッド教団	50,000	2020
イエス・キリスト福音の群	20,000	2020
日本ネクスト・タウンズ・ミッション	30,000	2020
日本フォースクエア福音教団	40,000	2020
シオン宣教団	20,000	2020
日本オープン・バイブル教団	40,000	2020
日本ベテルミッション	20,000	2020
日本ペンテコステ教団	30,000	2021
サンビ教団		2020済
ブルゴスベル(純福音)日本総会	50,000	2020

<PWC参加積立>

2020年度 50,000円

会計残	1,242,635
積立金	50,000
合計	1,292,635

■JPC規約

- 1) 本会は、名称を『日本ペンテコステ協議会』(Japan Pentecostal Council 略称JPC)とする。
- 2) 事務局
本協議会の事務局を日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団本部に置く。
- 3) 目的
本協議会の目的は、日本におけるペンテコステ信仰の健全な成長と発展を促進するために、ペンテコステの教団及び教団に準ずるグループの指導者・教職者間における交流を深め、情報交換及び相互理解を図り、教職研修を行うことにある。
- 4) 信仰宣言
本協議会の構成員は、以下の信仰宣言を告白するものとする。
 1. わたしたちは、聖書が靈感された、唯一の誤りのない権威ある神の言葉であることを信じる。
 2. わたしたちは、父と子と聖霊の三位において永遠に存在される唯一の神を信じる。
 3. わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストの神性、処女降誕、罪のない生涯、奇跡、十字架の血による代償的贖罪的犠牲、肉体をもつての復活、父の右の座への高挙、また、力と栄光の中での再臨を信じる。
 4. わたしたちは、失われた罪人のためには、みことばと聖霊による新生が不可欠であると信じる。
 5. わたしたちは、異言の証拠を伴う聖霊のバプテスマを信じる。
 6. わたしたちは、聖霊の今日的働きによる肉体の癒し、および種々の聖霊の賜物を信じる。
 7. わたしたちは、聖霊の内在によって清い敬虔な生活が可能となることを信じる。
 8. わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストにおける信者の霊的一致を信じる。
 9. わたしたちは、聖徒の復活、失われた者の審判、新天新地を信じる。
- 5) 活動
定期的に会議を開催し、各教団及びグループの指導者・教職者間の交流、意見・情報の交換、研修その他必要な活動を行う。広報誌と機関誌を発行する。
- 6) 総会
本協議会は最高議決機関として総会を置く。総会は、加盟教団にそれぞれの教会数に応じて割り当てられた数の代議員によって構成する。
50教会以下 代議員1名 51～100教会 代議員2名 101教会以上 代議員3名
- 7) 役員
本協議会に議長、副議長、書記、会計を置き、その任期を3年とする。役員会は議長によって召集され、定期的に開催する。
- 8) 監事
本協議会に監事を置き、その任期は役員の任期に準ずる。
- 9) 経費
本協議会の経費は、加入団体の負担とする。
- 10) 附則
本規約は、1998年5月29日より実施する。この規約の変更は総会の議決を経て実施する。
本規約は、2003年3月25日および2014年11月27日に改正された。

■日本ペンテコステ協議会 加盟団体一覧 (50音順)

イエス・キリスト福音の群

代表 永井信義

〒 981-3604 宮城県黒川郡大衡村ゴスペルタウン 東北中央教会

TEL 022-345-2991 kakudai@ruby.ocn.ne.jp

神の家族キリスト教会

代表 水野明廣

〒 464-0094 愛知県名古屋市中区千種区赤坂町4-64 クリスマンライフ

TEL 052-721-7831 info@christian-life.jp

サンビ教団

代表 辻 秀彦

〒 730-0812 広島県広島市中区加古町14-8 シーズスフェローシップ広島

TEL 082-241-8957 jfhkakomachi@yahoo.co.jp

シオン宣教団

代表 安達隆夫

〒 578-0941 大阪府東大阪市岩田町5-15-28

TEL 072-964-5144 osakaziochurch@yahoo.co.jp

単立ペンテコステ教会フェローシップ

委員長 芳三容子

〒 238-0031 神奈川県横浜須賀市衣笠栄町4-4-75 横浜須賀クリスチャンセンター

TEL 046-851-0327 miyokofusa@yahoo.co.jp

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

理事長 土屋 潔

〒 170-0003 東京都豊島区駒込3-15-20

TEL 03-3918-5935 japanaog@ag-j.or.jp

日本オープンバイブル教団

代表 菅原 亘

〒 653-0845 兵庫県神戸市長田区戸崎通3-9-12 神戸キリスト栄光教会

TEL 078-612-5511 (denen-chapel@mpd.biglobe.ne.jp 山口)

日本チャーチオブゴッド教団

監督 八束選也

〒 146-0093 東京都大田区矢口2-1-18 東京ライトハウスチャーチ

TEL 03-3758-1625 eriya@cog.jp

日本ネクスト・タウンズ・ミッション

代表 高橋 務

〒 486-0841 愛知県春日井市南下原町3-5-8 主イエス恵愛教会

TEL 0568-85-9632 keiaichurch@lion.ocn.ne.jp

日本フォースクエア福音教団

総理 増井義明

〒 359-1125 埼玉県所沢市南住吉10-8 教団本部

TEL 04-2933-1858 <https://www.japan-foursquare.jp/form.html>

日本ベテルミッション

代表 津坂良夫

〒 197-0003 東京都福生市熊川1101 福生ベテル教会 内

TEL 042-551-1327 fussabethel@gmail.com

日本ペンテコステ教団

代表 榮 義之

〒 630-0243 奈良県生駒市俵口町951 生駒聖書学院

TEL 0743-74-7622 elimyoshi@kcn.jp

フルゴスペル(純福音)日本総会

総会長 志垣重政

〒 160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2丁目2-19 純福音東京教会

TEL 03-3232-0667 (m.senoo1001@gmail.com 妹尾)



Japan Pentecostal Council

日本ペンテコステ協議会

《事務局》

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 本部内

〒170-0003 東京都豊島区駒込3-15-20

TEL.03-3918-5935 FAX.03-3918-0474